

令和2年度 第四回 長浜市図書館協議会 会議録

日 時：令和3年3月18日 14時30分～15時15分

会 場：まちづくりセンター2階多目的ホールB

出席者：塩見昇会長、小西光代副会長、國松完二委員、平井むつみ委員、阿閉正美委員、
川瀬寛子委員、藤居みよし委員、小川淳三委員、藤田浩行委員、安井さと子委員

事務局：江畑市民協働部長 前嶋市民協働部次長、下司長浜図書館長、森図書館第一係長、
大西図書館第二係長、白谷司書

傍聴者：なし

【開会】

事務局から定数10人全員出席により会議成立の旨を報告し、長浜市立図書館管理規則第18条により、
会長が議長となり議事を進行した。

【令和2年度事業報告について】

事務局：令和2年度図書館事業報告について事務局から説明する。

(資料1ページ：実績概要) 2月末現在の状況で、個人貸出し冊数は741,112冊であり、今年度末には約81万冊を見込んでいる(昨年度実績は873,970冊)。昨年度から今年度にかけては、長浜図書館の移転・新型コロナウイルスの影響などがあり、単純に比較することは難しいが、全体の傾向として長浜図書館の貸出冊数は現時点で昨年度を上回り、約1.2倍となる見込みである。他の5つの図書館については昨年度を下回る状況である。

蔵書冊数は昨年度に引き続き、各館の複本などの整理を進め、総数として約35,000冊削減し、その結果、開架率としては向上している。また、予約リクエスト件数が現時点で昨年度と比べ増加しているが、その内訳を見るとWebからの予約が1.2倍と大幅に増えていることがわかる。

(資料2ページ：各種指標) これも2月末現在の状況で、最上段の「登録率」がこの1年間に1回以上本を借りた人の割合である。図書館基本計画で指標に挙げている「実利用率」に当たるが、なかなか上がっていないのが現状である。今年度については新型コロナウイルスの影響で出かけるのを控えている人もあるため単純に比較はできないが、やはり図書館利用の裾野を広げていかなければいけないということを改めて痛感している。

(資料3ページ：決算額) 2月末現在の支出済額。現時点で、執行率は87.5%だが、これも年度末には95%程度となる見込みである。

(資料4ページ：主なトピック) 今年度の主要な出来事をまとめた。折に触れてこの場でも報告してきたが、やはり新型コロナウイルスへの対応に追われた1年だったという感想である。

その中でも、5月には緊急的に学校への団体貸出の配本を行い、7月にはおはなし会再開に向けた試行を始めるなど、可能な限り迅速に対応を進めてきた。また、9月から図書館職員が講師を務める「大人のための図書館の達人講座」を3月まで5回開催した。内容は本の並べ方、レファレンス、ピックアップコーナー、本の装備、本の修理などである。各回人数を5人程度に絞った開催となったが、非常に熱心に参加していただき、わずかではあるが図書館と市民の距離を縮めることができた実感している。

ここには記載していないが、長浜図書館では、まちづくりセンターで活動しているサークルの作品などを展示する際に図書館の本も一緒に展示したり、現在は学習室の空席にティーンズ向けの本を「今日の1冊」として置いたりして、複合施設の特性を生かした取組みもいくつか進めることができた。

また、これまで書庫として使用していた余呉地区旧中野郷診療所にあった約2,000冊の資料を整理し、その建物自体は解体工事を行った。隣接する山村開発センターの解体と一体的に施工するため、市民活動課と一緒に契約執行した。

会 長：いずれも2月末現在の数値とのこと。コロナによって例年とは違った要素が入っている。単純に従来との比較をすることは難しい。この新長浜図書館が1年間働いたというのは初めてであり、そういう経験での総括が良くも悪くもこの中には出てきていると思う。これらを踏まえて、説明のあった今年度の事業概要について、ご質問やご意見を伺いたい。

委 員：図書館管理運営費に関して、年度末で95%執行見込みと伺った。コロナの関係で人件費もいらなかった部分もあると思うが、図書購入費についてはどうか。

事務局：図書購入費については、毎年100%執行している。

委 員：機械器具費の部分、図書除菌器3台と書いているがこれは何をどう捻出された形なのか。

事務局：図書除菌器は、借りた本を機械の中に入れ、風や紫外線で除菌できる機械。長浜図書館の1階と2階に各1台、高月に1台、合計3台導入した。コロナ対策として6月の補正予算で要求し、購入したもの。

委 員：1ページ目の除籍冊数に関して、浅井・びわ・高月の数が多いがこれは処分したのか、別の場所に移したのか。

事務局：合併以降、同じ本が複数ある状態であり、処分や他館へ移すなど整理を進めている。

会 長：リサイクルみたいなこともしているのか。

事務局：全館で除籍した本は、状態を確認した上でリサイクル本として利用者に提供している。約1ヶ月間所定の棚に出し、来館者は欲しい本を持ち帰ることができる。それでも残ったものについては廃棄している。

会 長：ポピュラーな本か、読み物か。

館 長：読み物が中心で、実用書については類書でカバーできるものなどが優先される。

委 員：1冊あたりの今年の平均単価が500円くらい高くなっている。これは、本が値上がりしているということか。それとも単価が高額な本を購入したためか。

事務局：この後、購入冊数も増えるため平均単価は2,000円を下回る見込みである。前年度はYAの本棚など全部新しいものを購入したが、比較的安価なものが多かったため若干単価が下がっている。今年度は前年度あまり買えなかった辞書類なども補充している関係で、少し単価が上がっているかと思う。

会 長：図書館の現場を預かり見ている立場から、新館の1年間で顕著に変わった部分や予想、あるいは予想したほどではなかったことなど、この新長浜図書館の1年はどうだったか。事務局から一人ずつ意見を聞きたい。

館 長：新しくなった図書館の影響と、コロナの影響等も全てが複合的であるので、これという影響が何なのかわからないまま必死でやってきた感じがする。ただ、若い世代をはじめ、来館される利用者は本当に広がりがあったということを感じている。学習室が良いか悪いかということではなく、明らかに施設に来られる環境が整っている。そのことで、本をお借りになる方も若い方が増

えたなど感じる。また、やはり長年、公民館として愛してこられたまちづくりセンターを利用されている方々が本を手にとられる環境も整ってきたと感じる。私たちからこんな本もあります、という呼びかけや働きかけで本を借りるきっかけとなる人がたくさんおられるということがわかった。

そして、この施設には社会福祉協議会があり、生活課題を持つ方がコロナの影響もありすごく増えていることがわかる。失礼な言い方かもしれないが、お出会いしたことがない環境の方々にたくさん接する機会があった。同じ市民の方で本当に明日のご飯も大変という方ももちろんおられるので、本を提供できる状況ではないということがイメージはあったが、本当にイメージでなく身にしみて体験する機会がたくさんあった。そのことがうまく読書と関わっていいのか、本と人をつないでいくことと、どう絡めていくべきかが課題であると思っている。

事務局：今回自動貸出機や自動返却機を導入したことをどういうふうに受けとめられるのか、楽しみも心配もあったが、案外利用者が早く慣れてくださったという印象がある。利用者も使い分けをされているのがよくわかる。便利に使われる方もあれば、あえてカウンターの方に来てやりとりを楽しまれる方ももちろん一定数おられ、自動貸出機等があることで職員の方もカウンターでゆっくりしっかりお話をうかがうことができている。貸出数が 1.2 倍になっているが、カウンターが混み合わないので、職員は慌てずに対応できる。利用者の方のお話をしっかり聞くことに職員が傾注できているのは、自動化のおかげが大きいと感じている。

事務局：1 年を振り返ると、去年の今頃はコロナもあり、新しい長浜図書館ができて、これからというときに鼻をくじかれた感があった。しかし、感染を予防しながら、それぞれの活動も行われてきており、人が少ない時期もあったが、最近は若い人たちを中心に戻ってきている印象である。新しい生活様式という言葉が去年から出始めたが コロナと共存していく中で、図書館としてもこれから新しいサービスの形を考えていく必要があると思う。

事務局：普段カウンターに立つ機会が多く、その中で特に感じるのは、若い方々がこの施設をよく利用されているということ。学習室を利用する学生が多いということもあるが、その方々が図書館も利用していることをカウンターで対応している中で感じている。YA の本棚でも学生が楽しそうに本を読んだり、何人かで集まって話したりしている様子も返却作業の際によく見かける。少しずつ若い人たちが図書館に来ているという印象を受けている。

会長：会計年度任用職員フルタイム司書を 19 名採用している。これまでの非正規の職員を制度の切り替えで一旦変更し、新たに 19 名を雇ったという意味か。この具体的中身、あるいはその一部の人が身分上会計年度職員に切りかわったのか、その説明をしてほしい。

館長：今年度の 4 月から、それまでは臨時職員であった職員は全て会計年度任用職員という制度に基づいて採用している。今年度の初めからいた職員も、元々会計年度任用職員で 1 年間の任用である。そこに評価によって再度の任用ができることが、専門職のフルタイム会計年度任用職員の規定にある。それに基づいて次年度は再度の任用を希望される方にもう一度採用試験を受けてもらい、19 人を採用したという経緯である。立場としては、フルタイムの会計年度任用職員が 19 人という意味で立場は変わらない。

会長：職員はほとんど継続が多いのか。

館長：継続の職員が多いが、新規採用職員もいる。

会長：結局、条件が揃えば何年継続できるのか。

館長：専門職については、その年の採用枠があれば評価だけで再度任用することもできる。ただ行政職

の事務職については、3年が経過し再度の任用を希望した場合、枠があれば採用試験を受験してもらい形になる。それは市の方針に従って規定をしているが、県内の状況を見るとパートタイムという形で7時間半とか7時間ということが多くみられる。本市は7時間45分のフルタイムの司書である。あとは一日7時間45分で週3日勤務というパートタイム職員がいる。

会 長：色々な勤務形態の人が働いているようだが、総数としては何人で長浜市立図書館を運営しているのか。

館 長：3月から2人事務員が増えて、今は46人で運営している。うち1人は育児休業中で4月から復帰する。3月採用の事務員2人は障がい者採用であり、予算上は図書館ではなく人事課付けであり、事務職として来てもらっている。非常に申し上げにくいだが、総人数は減ることになり、次年度は40人の体制になる。育休職員が復帰するため、代替職員として採用していた会計年度任用職員が退職するという入れ替わりはどうしてもある。最終的に次年度はフルタイムの司書は19人ということになった。

会 長：職員の構成は複雑でわかりにくいだが、だいたい40人ぐらいで運営ということか。

館 長：全館を40人で運営することになる。

会 長：合併前、それぞれ図書館があったときの職員数はどれくらいか。

館 長：人数でいうと今よりも少なかったかもしれない。パート職員も今は1人とカウントして申し上げた。合併前はフルタイム職員がもうすこし少なかった。

会 長：フルタイムは少なかったが、パート職員は別に在籍があったのか。

館 長：資料がなく正確な回答ができない。

会 長：他に、委員から何か意見はあるか。

(特になし)

以上